

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム あんしん睦沢		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-1		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外部研修の機会があれば積極的に参加し、職員の知識・技術の向上を目指している。
 また、利用者には最低月1回の全体外出レクリエーションの実施支援・買い物支援・同行・散歩にて地域の人との関わりや、畑・鶏小屋等外と触れ合う機会をとっている。
 更に、調理・掃除・洗濯等の家事支援が一通り出来る様、職員が一部介助に入り、一緒に行くことで利用者の機能低下予防の支援を行っている。
 利用者と職員が信頼関係を築き、利用者が落ち着いて過ごせる空間作りを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あんしん睦沢」は、2014年夏に、同敷地内の新施設に移転し、バリアフリーの環境が整った安全面に配慮した造りとなっている。同敷地内での移転の為、継続して地域住民との関わりを深めており、地域行事への参加・日頃の声掛け・施設行事への招待等、様々な形で交流を図っている。防災対策に力を入れており、年2回の避難訓練の他、職員会議時を活用して、月毎に担当職員が夜間想定避難訓練を実施する等、全職員が避難方法を確認する機会を設けている。また、非常持ち出し袋・備蓄食料の整備を行っており、非常時・災害時の対策を講じている。定期的に意見交換・申し送り・親睦会の実施等を行い、密にコミュニケーションを図るよう努めており、離職防止・職員間の連携強化に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し安全で安心して楽しく、美しい共同体を含めた和をもって確立する」という法人理念を掲示している。	「個人の尊重」「安全・安心」「地域との連携」等を主眼とした施設理念を掲げていると共に、運営方針・身体拘束排除宣言等を掲げ、施設内に掲示している。施設移転時に、職員間で再度理念の再確認を行い、理念に基づくサービスの統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入していて、回覧板に施設情報や近隣にパンフレットを設置してもらい、理解の促進を図っている。 地域のボランティア活動の受け入れ等を通じて、地域の人々との交流が出来つつある。	自治会に加入していると共に、近隣住民と挨拶・声掛けを交わす関係を築いている。また、地域行事への参加・施設行事への招待・地域回覧板への情報掲載等、様々な形で地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	祭りや地域の集まりに参加し、より認知症の方の理解を深めて貰えるようにはたらきかけている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場職員、区長、民生委員、家族等構成員として年2回運営推進会議も開催している。 会議では、活動報告や情報交換を行って、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、年2回開催しており、町役場職員・地域区長・民生委員・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営全般に関わる相談や町からの受け入れ要請にも対応し、協力関係が図られている。 また、グループホーム連絡会に加入し、会議や研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	日頃から町とは、相互に相談し合う関係を築いており、必要に応じて、随時報告を行う等、連携を図っている。また、運営推進会議を活用して、意見交換を行うと共に、町主催の救急救命講習・地域連携フォーラム等に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除における施設方針を明文化している。 声掛け等入所者の自由な生活を支援している。	身体拘束排除における施設方針を明文化していると共に、マニュアルの整備を通じて、職員への理解を促進している。また、必要に応じて、入居者の支援方法を会議で検討し、適切な改善及び情報の共有に努めている。	身体拘束排除における外部研修への参加または、内部研修の実施を通じて、定期的に支援方法が適切かを確認する機会を設けて頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を教育すると共に、資料等を活用し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば、出席させたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見、要望の確認を行っている。 挙げた意見、要望は会議にて周知し、適切な改善に努めている。	家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議を活用して、意見や要望等を確認している。 挙げた意見・要望においては、会議・申し送り・連絡ノート等にて、周知・検討しており、適切な改善に努めている。また、日頃の様子や写真を定期的に郵送しており、家族との良好な関係構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノート、月1回の会議が定着し、意見を確認している。 スタッフ同士コミュニケーションを図り、言い易い環境作りに心掛けている。	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けている。また、定期的に会議にて、夜間想定避難訓練を実施する等の工夫をしている。スタッフ間でのコミュニケーションを大切にしており、離職防止・連携強化に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。 給与水準については、現場で査定するシステムになっていない為、反映されない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修案内は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の参加や、同法人の情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談を行い、本人の様子や困っていること、不安、要望に耳を傾けている。また、意思が撮りづらい方は、表情から安心を感じられる様に心掛けている。スタッフにも寄り添う事の大切さを教えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで、不安・要望等を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況の変化に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者とともに、食事づくり・掃除・洗濯他、日常生活全般を寄り添い行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況説明をし、本人と家族の話がスムーズに行く様サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪は受け付けている。 また、私との外出・外泊は自由で、家族関係の継続も支援している。 利用者の馴染みの場所への外出・土いじり等、趣味を生かした活動も行っている。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けていると共に、外泊・外出も自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、一時帰宅・地域行事への参加・商店の利用等、馴染みの場所への外出活動も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、1人ひとりが孤立しない関わり(調理・掃除・洗濯等)を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のお見舞い、告別式参列等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に本人、家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医療機関等より詳細や情報の把握に努めている。 会議や申し送りノート等職員全員で入所者の意向、身体状況等を共有できるように努めている。	契約時に本人・家族の意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、職員間で常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談、入所時に生活歴や暮らし方を聞き取る。 また、入所時には、馴染みの品を持ってきて頂き。生活しやすい環境にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿・排便状況の把握、歌や絵、草むしりや畑仕事、調理。掃除・洗濯等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や身体状況を踏まえて、会議にて検討のうえ、介護計画を作成している。 定期的に介護計画の目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて3か月に1回見直し。家族からの意見も取り入れて作成に取り組んでいる。	本人・家族の意向を基に、会議等で検討しながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。必要に応じて、医師・家族の意見の確認・話し合いを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、会議、ヒヤリハット、日々の行動やスタッフ間の情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて職員からの提案等を取り入れながら、柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家の近所の方々の面会、本人が楽しい生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、歯科・内科の往診も実施し、適切な受診支援を行っている。 協力医療機関とは24時間連絡可能となっており、緊急時・急変時の協力体制を構成している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添いを行っている。定期的に内科医・歯科医の往診や訪問看護を実施しており、適切な医療支援及び健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化があつて時等、看護師に相談し、支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師と介護側で情報交換し、退院後に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期における施設方針を明文化すると共に、家族に同意書を得ている。必要時には、会議にて対応策を検討しながら、家族の意向に沿った支援が行えるよう努めている。医師、看護師には、24時間連絡可能となっており、緊急時・急変時の協力体制を構築、適切な支援が行えるよう体制を整えている。	重度化における意向確認書・延命希望確認書等を整備し、家族の同意を得ている。必要時には、往診医・家族・訪問看護師等と話し合いを行いながら、適切な支援が行えるよう協力体制を整えている。また、医師や訪問看護師とすぐに連絡が取れる体制が出来ており、緊急時・急変時における対策を講じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断が難しい時は、看護師に常時連絡が取れる体制となっている。応急手当等、スタッフは研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器・自動通報機・消火器・非常誘導プレート・スプリンクラー・AED等、緊急時に備えている。また、消防署立会いにて消火訓練も実施しており、非常時の対応方法を学んでいる。スタッフは、救命救急講習も受講している。	火災報知器・自動通報機・スプリンクラー・非常ベル等の消防設備を設置していると共に、年2回消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・通報訓練等を行っている。また、訓練とは他に、会議にて夜間想定避難訓練を実施する等、災害時・非常時対策を強化すると共に、救急救命講習の受講やオール電化設備の導入等、緊急時対策及び火災予防に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を実施し、職員への理解促進を図っている。 希望に応じて同性介助を行っており、自室のオムツ等を見えない様収納し、プライバシーの配慮を行っている。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備を行うと共に、会議にて、接遇の指導を行う等、職員への理解促進に努めている。また、入浴や排泄の拒否においては、無理強いをせず、タイミングや声掛けを工夫し、適切な対応を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日には、散歩や外出が出来る様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が自由に過す。 スタッフが提案をし、散歩・買い物・ドライブ・畑や庭の手入れ・折り紙等をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から持ち込まれた衣類や入所時持参した化粧品等で、外出時には化粧品をして出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、食事の準備や片付け等入所者と共同で行っている。 入所者の希望等を考慮して対応し、定期的に外食や手作りおやつ、行事食を実施して楽しみを支援している。	入居者の希望に応じて、食事の準備や片付けまで共同で行っている。法人の栄養士による献立をベースにし、その都度入居者の希望を確認しながら変更する等、栄養バランス・嗜好に配慮した食事提供を行っている。 定期的に外食行事・行事食の提供・手作りおやつ等を実施しており、食に対する楽しみを提供している。	

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を把握し、1日を通しバランスよく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回訪問歯科を受けている。 一人でケアできる利用者は、時間がかかっても声かけ・見守りで対応している。 また、朝・夕をイソジンにて、うがいをを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、夜間はポータブルトイレの使用やトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。 また、食事・水分・運動等に気を配り、必要に応じて、医師・看護師と相談しながら排便コントロールを行っている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々のパターンを把握し、仕草や状況を確認しながら、トイレ誘導・声掛けにて対応しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。日頃から乳製品の摂取・運動の実施に努めると共に、必要時には、医師・看護師と相談しており、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表・散歩や毎日の体操、食物繊維の多い食事等、個々に応じた対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を定めているが、入所者の希望や体調に応じて、曜日・回数を変更し、清拭・部分浴・シャワー等、柔軟な対応を行っている。 また、季節に合わせた入浴剤を使用し、保温効果や季節感を味わってもらい、入浴を楽しく行ってもらえるように工夫している。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に回数等を調整しながら、適切な入浴機会の確保に取り組んでいる。また、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。その他にも、入浴剤の使用・季節に合わせた薬湯の実施等、楽しく入浴が行える工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコン完備。日中居室で休まれる方や、夜間の室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋に従っている。また、スタッフ2人体制で、誤薬の無いように、本人と薬の確認を行い、飲み込みまでの確認を行っている。		

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・新聞折り・庭先の手入れ・買い物・散歩等、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・ドライブ等の日常的な外出支援を実施し、敷地内にある畑や鶏小屋等を活用し、外の空気を楽しめるようにしている。 定期的な外出行事や同法人グループホームとの交流や、外部の人との交流を支援している。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。また、敷地内に畑や鶏小屋があり、卵の収穫・草木の手入れ等、気軽に外の空気に触れられる環境整備がなされている。その他にも、外出会や同法人の他グループホームとの交流等、施設外での楽しみ事を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者が2名。その他の利用者はないが、支援する様努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望があった場合対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白を基調とした内装と自然光を取り入れ、明るさと季節感を強調し、各所に手すり・バリアフリーを配置して安全確保をしている。 また、イベントと等にて撮影した写真を掲示し、利用者の居心地をよくする配慮を行っている。	施設は今年度に新しい建物に移転している。施設内は、手すりやスロープの設置・段差除去がなされており、バリアフリーの環境が整備されている。また、共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子・畳スペースがあり、自由にくつろげるよう配慮している。また、廊下の突き当たりに椅子を設置し、ひなたぼっこや気分転換を図れるスペースとして活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いて、話や日光浴をしている。		

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具を持ち込む事が出来る。 布団の使用、テレビの設置等可能であり、生活歴に合わせた居室作りが可能。 全居室にエアコンを設置しており、和洋希望可。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、和室5室・洋室4室あり、生活歴や希望に合わせた居室作りにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、個々によって肘掛椅子を使用している。		